

福井県嶺南地域流域検討会【第 29 回】 議事概要

日時：令和 7 年 11 月 6 日（木）14：30～16：00

場所：小浜土木事務所 大会議室



◆委員からの主な意見（■：委員、□：河川管理者）

1 福井県嶺南地域流域検討会の規約改定

規約改定について、承認された。

2 嶺南西部地域の河川整備計画の点検

- 多田川において急激な湾曲区間のリスクには対応しているのか。
- 河川整備にあたっては、環境面への配慮から川の自然な線形を活かしている。その上で、水衝部となる湾曲区間においては、根固めブロックを設置するなど治水と環境の両立に努めている。
- 多田川などにおける護岸基礎部の鋼矢板は地下水流動に影響を与える可能性があるため、今後は地下水への影響を考慮して穴あき矢板なども検討いただきたい。
- 今後、設計にあたり検討していく。
- 多田川における暫定改修区間においては多様な生物が確認されているため、今後河川整備を行う際には環境に配慮したブロック護岸の活用や護岸前面への捨石設置により配慮をしてもらいたい。
- かつての河川改修においては環境への配慮が足りなかったことがあったが、今後の河川改修においては、委員の方々のご意見を踏まえながら、生物環境に配慮した多自然川づくりを進めていく。

■多田川における整備済みの下流区間において、今後環境に配慮した護岸改修などは困難なのか。また、暫定整備区間において今後河川整備計画目標の河道整備を行う際に現状の緩傾斜護岸のような環境配慮の河道整備は困難なのか。また、コンクリートの三面張りにするようなことはないか。

□整備済みの下流区間においては、現時点での改良は困難である。暫定整備区間においては、将来的に河川整備計画目標の河道断面を確保する必要があるものの、水際部に多様性をもたせるなどの工夫は必要であると考えている。三面張りにはしない。

■森川の河川改修工事にあたっては重要種の保全のために配慮いただきたい。そのために、護岸部においては移植、河床部においては特定外来種の除去が有効だと考える。なお、河川管理にあたっては例えば環境教育として付近の中学校・高校・大学などと連携してはと考える。

□今後とも生物環境に配慮していく。実施にあたっては必要に応じて委員の方々にご相談に伺いご助言を頂ければと考えている。

■北川流域において田んぼダムを取り組んでいる地域の進め方について教えてもらいたい。

□まずは田んぼの所有者や耕作者、地域の方々のご理解を得られたところから順に広げている状況である。

■これからのまちづくりにあたっては、治水の観点から規制をかけて洪水被害の軽減を図っていくことも考えられる。

□現在、県内の各市町においては立地適正化計画にて居住誘導区域を設定している。また、新たに防災指針を取り入れた立地適正化計画の改定作業を順次進めており、今後もまちづくりと防災が連携した考え方が進んでいくと思われる。

■河内川ダムの河川空間のオープン化の事例のような地域のにぎわいが生まれる取り組みは他の場所でも可能なのか。また、そういった計画はあるのか。

□県として具体的な計画は現状ない。なお、「かわまちづくり」の支援制度があるため、地域の要望があれば県まで相談していただきたい。

■森川の周辺には小学校などがあり、また、改修計画では緩勾配となっており親水空間として活用できる。一部区間だけでもいいので地域の人たちが川に親しめる空間づくりをしてほしい。

■江古川流域でも文化財や教育の施設が点在している。そういった施設も踏まえた治水計画を検討いただきたい。

□文化財などにも配慮しながら検討していく。

3 気候変動の影響を踏まえた治水計画の見直し

気候変動の影響を踏まえた治水計画の見直しについて、異議なし。

4 検討会の予定

検討会の予定について、異議なし。